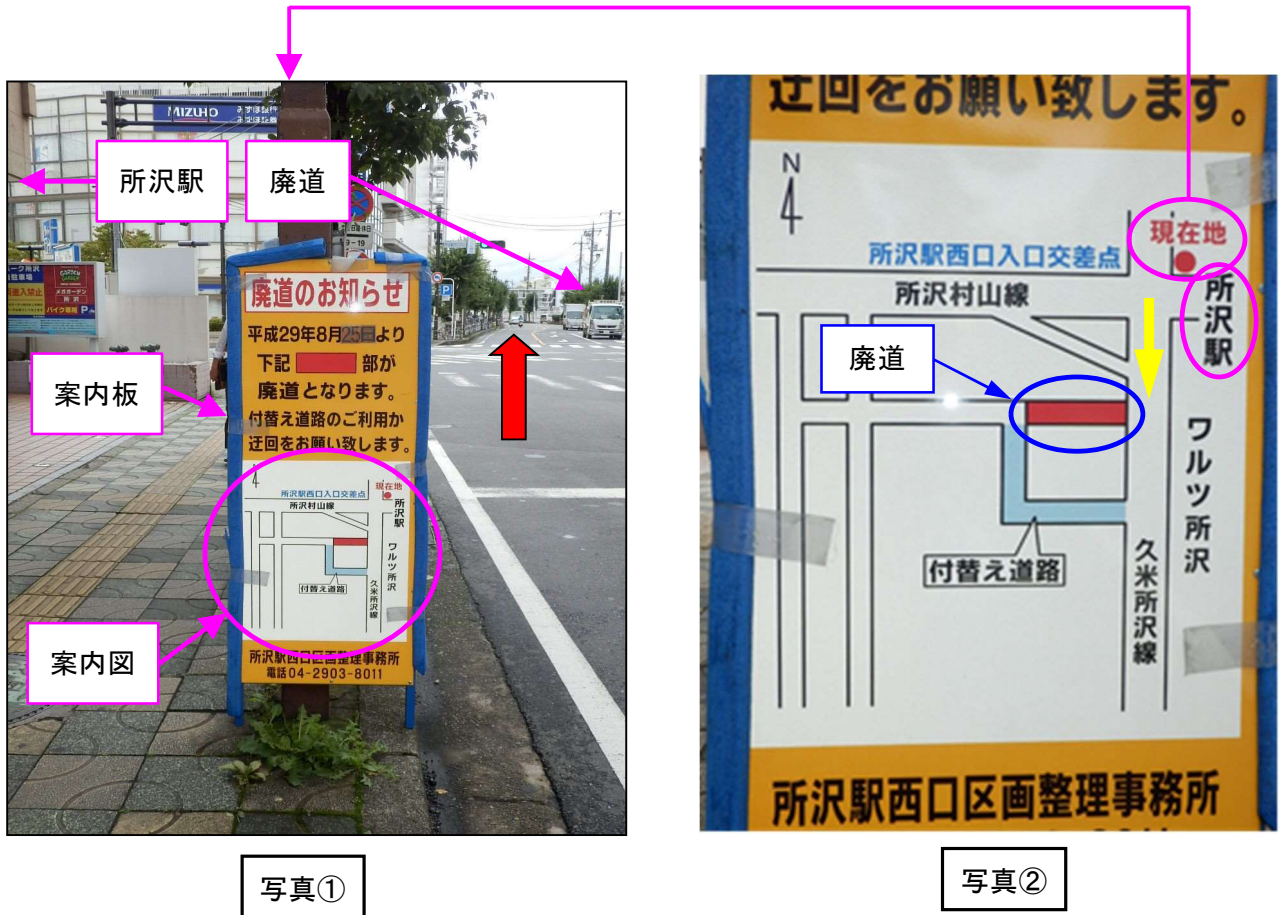


## 【駅前にあった“わかりにくい案内図”】

### 1. わかりにくい案内図

数年前、所沢駅の駅前の交差点に写真①に示したような「廃道のお知らせ」の案内板が設置されました。案内板の中には、廃道の位置を示す案内図も表示されていました。案内図を拡大したのが写真②です。写真②で赤く着色してある部分が廃道です（青丸の中）。



ここで廃道の位置を確認します。写真①の案内板の位置では（以後、「①案内図の位置」と書きます）、廃道は、写真①の中の赤い矢印の方向です。写真②の案内図で考えると、廃道は、写真②の中の黄色い矢印の方向です。すなわち、①案内板の位置と写真②の中では廃道の位置が逆になります。赤い矢印と黄色い矢印の方向が逆だからです。例えば、所沢駅は、①案内板の位置では左方向ですが、写真②の中では右方向です。そのため、①案内板の位置で廃道の位置を確認しようとするるとこの案内図を頭の中で逆にする必要があります。

この案内図はわかりにくいです。①案内板の位置で案内図を見て廃道の位置を確認する人の立場に立ってこの案内図が描いてないからです。

## 2. わかりやすい案内図

以下の右側に示した写真④のような向きで案内図が描いてあったら廃道の位置（青丸の中）がすぐにわかります。写真③の案内板の位置では（以後、「③案内図の位置」と書きます）、廃道は、写真③の中の赤い矢印の方向です。写真④の案内図で考えると、廃道は、写真④の中の黄色い矢印の方向です。すなわち、③案内板の位置と写真④の中では廃道の位置が同じ方向です。赤い矢印と黄色い矢印の方向が同じだからです。例えば、所沢駅は、③案内板の位置でも写真④の中でも左方向です。したがって、③案内板の位置で廃道の位置を確認する場合にもこの案内図を頭の中で逆にする必要がありません。

この案内図はわかりやすいです。③案内板の位置で案内図を見て廃道の位置を確認する人の立場に立ってこの案内図が描いてあるからです。



写真③



写真④

## 3. 北を上して案内図を描いたことが原因

写真②に示したようなわかりにくい案内図を描いた理由は、「北を上にして地図を描く」という考え方にに基づき描かれた案内図だからです。通常、北を上にして地図を描きます。しかし、これは、地図を描くときの絶対条件（ルール）ではありません。どのような方向を上にして地図を描いても問題ありません。

案内図を見る人の立場に立ち、見る人がわかりやすいように案内図を描くことを優先することを考えれば、今回の場合には写真④のように北を下にして案内図を描くべきです。

#### 4. 「わかりにくい案内図」と「わかりやすい案内図」から学ぶこと

「わかりにくい案内図」と「わかりやすい案内図」から学ぶことは、「見る人の立場に立って案内図を描くという意識を持つ」ということです。つまり、見る人の立場に立ち「この案内図で廃道の位置がわかるか」と考えて案内図を描く意識を持つことです。見る人の立場に立って写真②の中にある案内図を見れば「ちょっとわかりにくいな」ということがわかると思います。

今回の事例を、内容が明確に伝わる技術文書を書く場合に当てはめてみると、「読み手の立場に立って技術文書を書くという意識を持つ」ということです。つまり、読み手の立場に立ち「この書き方で内容が明確に伝わるか」と考えて技術文書を書く意識を持つことです。

これは、「内容が明確に伝わる技術文書の書き方の3原則<sup>注)</sup>」での「書き方の第1原則（書き手と読み手の違いを認識する）」を認識して技術文書を書くことです。

注)：『内容が明確に伝わる技術文書の書き方の3原則』とは」の資料を参考のこと

以 上